

## 2021 年度事業報告

### 1. 会議、広報活動および会員数

#### (1) 会議の開催状況

##### (a) 評議員会

開催年月日	会議の内容
第一回 (定時) 6月20日	(1) 2020 年度事業報告について (2) 2020 年度計算書類 (2020 年度計算書類、附属書類 [計算書類関係]) について
第二回 (臨時) 3月19日	(1) 2022 年度事業計画について (2) 2022 年度収支予算書 (3) 定款第 1 章第 2 条の変更について

##### (b) 理事会

開催年月日	会議の内容
第一回 (通常) 6月5日	(1) 理事長、副理事長による学会活動報告、および各委員会による活動報告 (2) 2020 年度事業報告 (案) について (3) 2020 年度計算書類報告について (4) 2021 年度研究大会開催方式について (5) 2020~24 年期定時評議員会開催について (6) 新入会員の承認 (7) 会費滞納会員一覧
第二回 (通常) 9月11日	(1) 理事長、副理事長による学会活動報告、および各委員会による活動報告 (2) 2021 年度学会奨励賞受賞者の決定について (3) 2021 年度研究大会業務委託について (4) 事務局スタッフ退職と採用について (5) 新入会員の承認

第三回 (臨時) 10月29日	(1) 理事長による学会活動報告、および各委員会による活動報告 (2) 新入会員の承認
第四回 (通常) 12月20日	(1) 理事長による学会活動報告、および各委員会による活動報告 (2) 政治学系学会間の連携への参加について (3) 「研究報告」の執筆要領について (4) International Studies Association の研究大会における日本国際政治学会主催ラウンドテーブルセッションへの会員参加費用について (5) 会員によるペンネーム使用について (2) 新入会員の承認
第五回 (通常) 3月5日	(1) 理事長、副理事長による学会活動報告、および各委員会による活動報告 (2) 2022年度事業計画書及び収支予算書について (3) 2022年期第二回臨時評議員会開催について (4) 主たる事務所の移転先・契約書・移転日について (5) 国内旅費助成委員会運営規程について (6) 新入会員の承認

(c) 総会

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、10月30日、オンライン形式にて会員総会を開催した。

(2) 各種広報活動の状況

実施月	実施内容	対象者	発行形態
5月12日	Newsletter 167号刊行	会員	学会ウェブサイト公開
8月4日	Newsletter 168号刊行	会員	
11月25日	Newsletter 169号刊行	会員	
2月2日	Newsletter 170号刊行	会員	

①Newsletter は学会ウェブサイトで開催している。

(<http://jair.or.jp/publication/nl.html>)

②Newsletter の目的は、評議員会・理事会・各種委員会・分科会・事務局の活動の現況と今後の方針について情報を発信するとともに、会員からの声を反映し、会員相互の情報交換を促進することにある。国際政治学・国際関係論の研究とその方法、素材などが多様化している中で、会員が新たな研究動向を迅速に把握するのは容易ではなくなっている昨今の状況踏まえ、今年度からの新たな取

り組みとして、「研究報告——国際政治研究の先端」のコーナーを設け、より速報性や問題提起性を重視し、相対的にコンパクトな論考を掲載してゆくこととした。

③学会ウェブサイトを通じた情報発信も継続・拡充し、今期は刊行物の案内 10 件、理事会・委員会からの連絡 23 件、研究大会の関連情報 28 件、シンポジウム等の案内や公募情報 66 件、合計 127 件の発信を行った。

④会員に対する情報提供のサービスとしてメーリングリストを活用した情報提供を実施し、Newsletter の刊行や研究大会の報告者募集および学会誌への投稿募集などについて連絡を行った。

### (3) 会員数の状況

2021 年度新入会員	88 名
2021 年度退会会員	66 名

種別	人数
維持会員	0 名
一般会員	1,639 名
学生会員	175 名
シニア A 会員	86 名
シニア B 会員	83 名
家族会員	38 名
計	2,021 名

2022 年 3 月 31 日現在

## 2. 事業の成果

### (1) 継 1. 機関誌・書籍発行事業

1. 和文機関誌『国際政治』205 号「検証 エコノミック・ステイトクラフト」、206 号「国際政治の中の同盟」、207 号「ラテンアメリカ内政と国際関係の再検証」をそれぞれ刊行した。レフェリーによる厳正な審査を行うことによって、高い学術研究水準を確保しつつ、従来独立論文号として年度末に刊行していた独立論文を各号への掲載に変更し、論文発表までの期間を短くした。

2. 研究成果の公開を一段と進めるため、独立行政法人科学技術振興機構が運営する電子ジャーナルの無料公開システム (J-STAGE) を活用して、すでに 207 号まで掲載されている『国際政治』のバックナンバーを今期は 200 号まで無料公開した。

3. 英文機関誌 *International Relations of the Asia-Pacific (IRAP)* について

は、Vol.21, No.2、同 No.3、Vol.22, No.1 の計 3 冊を電子ジャーナルにて発行した。投稿論文の掲載可否を判断するにあたっては、国際的なレフェリー陣による厳正な審査を行い、国際的学术交流の最前線として高い水準を維持した。

4. IRAP のインパクト・ファクターは 2016 年度には 0.676 であったが、2020 年度には 1.406 に上がり、最新版の 2021 年度には 2.324 にさらに上がっている。

## (2) 継 2. 研究会・講演会事業

1. 10 月 29 日～10 月 31 日に新型コロナウイルスをめぐる状況を考慮し、昨年度に引き続きオンライン形式による研究大会を開催した。大会参加者は、3 日間でオンライン会場にアクセスした端末総数（重複を含まない）で昨年度よりも多い 802 を数えた。共通論題はパネルディスカッション方式で行い、通常部会 15、日韓合同部会 1、分科会 28、英文ジャーナル投稿セミナー 2 の企画を実施した。

2. 研究大会における部会、分科会プログラムは添付資料の通りである。

## (3) 継 3. 国際学术交流事業

1. 海外における研究成果発表や研究交流を促すため、国際会議に参加する会員に対してその渡航費などの支援を行う国際学术交流助成制度を今年度も継続し、International Studies Association (ISA) 研究大会における日本国際政治学会主催ラウンドテーブルへの参加者 6 名に対し助成を行った。

2. 日本国際政治学会の研究大会（10 月 30 日）では、日韓合同部会 “Constructing Regional Architecture: Middle Powers in the Asia-Pacific” を開催し、KAIS（韓国国際政治学会）から 2 名、台湾、ポーランドから各 1 名、日本国際政治学会から 2 名が報告者・司会者としてオンラインで参加した。例年参加していた本年度の KAIS 研究大会における日韓合同部会は、韓国において新型コロナ感染症が再拡大する中で、規模を大幅に縮小して開催することとなったため、中止となった。

3. 研究大会では、日韓合同部会の開催について江草基金より国際研究集会開催助成を受けた。

4. International Studies Association、WISC (World International Studies Committee) など海外諸学会の動向や学術情報、本会が企画したラウンドテーブル開催情報を会員に伝えて会員の国際学術会議への参加を促し、諸地域・諸外国との学术交流のネットワーク構築に取り組んだ。

## (4) 他 1. 研究活動奨励事業

2021年度の第14回学会奨励賞を、藤田将史会員の「米国のIMF利用における国内的意図—多国間組織への委任の批判回避機能—」（『国際政治』204号）に授与した。本賞は2008年度に創設されたものであり、前年度の和文機関誌『国際政治』および英文機関誌 *International Relations of the Asia-Pacific* の執筆者のうち、40歳以下の若手会員を対象とした学会賞で、学会奨励賞選考委員会が選考を行う。

また、藤田会員による論文英訳に対して助成を行った。

### 3. その他重要な事項

本年度より、今年度より学生会員の会費削減、院生・若手研究組織の統合、および院生・若手研究者に対する国内旅費の支援を開始した。

## 4. 庶務の概要

### (1) 役員等に関する事項

#### 2021年度役員名簿（アイウエオ順）

理事長	大矢根 聡	同志社大学教授
副理事長	飯田 敬輔	東京大学教授
理事	青山 瑠妙	早稲田大学教授
	磯崎 典世	学習院大学教授
	遠藤 貢	東京大学教授
	楠 綾子	国際日本文化研究センター准教授
	葛谷 彩	明治学院大学教授
	倉科 一希	広島市立大学教授
	鈴木 基史	京都大学教授
	武田 知己	大東文化大学教授
	都留 康子	上智大学教授
	潘 亮	筑波大学教授
	宮城 大蔵	上智大学教授
	和田 洋典	青山学院大学教授
監事	篠原 初枝	早稲田大学教授
	山田 敦	一橋大学教授

評議員	赤木 完爾	慶應義塾大学名誉教授
	石田 淳	東京大学教授
	遠藤 誠治	成蹊大学教授
	大芝 亮	広島平和研究所所長

太田 宏	早稲田大学教授
吉川 元	広島市立大学教授
國分 良成	慶應義塾大学名誉教授
古城 (久具) 佳子	青山学院大学教授
酒井 啓子	千葉大学教授
佐々木 卓也	立教大学教授
田所 昌幸	慶應義塾大学教授
中西 寛	京都大学教授

1. 一般財団法人 日本国際政治学会 2021 年度研究大会  
部会・共通論題プログラム

---

第 1 日 10 月 29 日 (金) 13:00~15:30

---

午後の部会 (13:00~15:30)

部会 1 「技術革新をめぐる国際政治」

司会 田中 明彦 (政策研究大学院大学)

報告 齊藤 孝祐 (上智大学)

「米国の AI 戦略と同盟国間の技術管理——コンセンサス形成の問題を中心に」

福島 康仁 (防衛研究所)

「宇宙技術の革新と安全保障」

伊藤 亜聖 (東京大学)

「新興国のデジタル化とチャイナエフェクト」

討論 土屋 大洋 (慶應義塾大学)

佐橋 亮 (東京大学)

部会 2 「『帝国』の復活か、残影か——歴史上の帝国秩序と現代」

司会 永野 隆行 (獨協大学)

報告 小川 浩之 (東京大学)

「イギリス帝国の遺産と現代国際関係」

池内 恵 (東京大学)

「中東の『選択的帝国』」

岡本 隆司 (京都府立大学)

「二つの『中国』——歴史的にみる東アジアの帝国秩序」

討論 石田 憲 (千葉大学)

酒井 哲哉 (東京大学)

部会 3 “Methodological Developments in the Studies of SDGs” (英語で実施)

Chair: MORI Katsuhiko (International Christian University)

Speakers:

KURUSU Kaoru (Kobe University), KAWAMURA Shin'ya (Chubu University),

TAKASU Yukio (Ritsumeikan University)

“SDGs and Human Security Indicators of Japan at Sub-national Level: for Leaving No One Behind”

SAKAMOTO Takuto (The University of Tokyo), OISHI Koji (Aoyama Gakuin University)

“The Evolution of Global Development Cooperation: An Analysis with Stochastic Block Modelling”

GATES Scott (The University of Oslo)

“The Effect of Armed Conflict on the Sustainable Development Goals: Apply Synthetic Control Methods”

Discussant:

OSHIBA Ryo (Hiroshima City University)

MATSUMURA Naoko (Kobe University)

#### 部会 4 「国際レジーム論を問い直す——その後の理論的展開と今日的意義」

司会 河野 勝 (早稲田大学)

報告 坪内 淳 (聖心女子大学)

「レジーム論とリアリスト」

南山 淳 (筑波大学)

「安全保障レジームの再検討——CSS の視角から」

宮脇 昇 (立命館大学)

「国際レジームの争点領域——新自由主義制度論の見地から」

討論 足立 研幾 (立命館大学)

横田 匡紀 (東京理科大学)

#### 部会 5 「国際関係論の教育——何を誰に如何なる手法で教えるのか」

司会 椛島 洋美 (横浜国立大学)

報告 杉村 美紀 (上智大学)

「国際高等教育の展開と大学教育の課題」

上杉 勇司 (早稲田大学)・小山 淑子 (東洋大学)・小林 綾子 (上智大学)

「ポストコロナの参加型授業——紛争解決ワークショップの改良と効用」

佐藤 洋一郎 (立命館アジア太平洋大学)

「多文化環境における国際関係教育」

討論 椛島 洋美 (横浜国立大学)

馬場 孝 (静岡文化芸術大学)

分科会セッション A (15:45~17:45) 別掲

---

第2日 10月30日(土) 9:30~12:00, 16:15~19:05 (共通論題)

---

午前の部会 (9:30~12:00)



**部会 6 「沖縄返還50年——国際政治史の文脈で」**

司会 我部 政明（琉球大学）

報告 河野 康子（法政大学）

「冷戦と脱植民地化の中の沖縄——那覇・ニューヨーク・東京（1961-1967）」

野添 文彬（沖縄国際大学）

「沖縄米軍基地の整理縮小は進んだのか？——沖縄返還とその後」

成田 千尋（立命館大学）

「東アジア国際政治と沖縄返還交渉」

討論 佐道 明広（中京大学）

佐々木 卓也（立教大学）

**部会 7 「ソーシャル・メディアによる連帯と分断の国際政治」**

司会 外山 文子（筑波大学）

報告 五野井 郁夫（高千穂大学）

「ソーシャル・メディアとグローバルな民主主義」

張 雪斌（大阪経済法科大学）

「中国の対外宣伝広報におけるソーシャル・メディア」

山本 達也（清泉女子大学）

「ソーシャル・メディアをめぐる政府と民衆のパワーバランスの推移と国際政治への影響」

討論 阿古 智子（東京大学）

千葉 悠志（公立小松大学）

**部会 8 「和平調停と平和構築における包摂性の課題」**

司会 田中（坂部） 有佳子（青山学院大学）

報告 東 大作（上智大学）

「包摂性の課題——南スーダンとアフガンのケース」

谷口 美代子（国際協力機構）

「包摂性の課題——ミンダナオの事例から」

山尾 大（九州大学）

「戦後イラクにおける包摂性と国民統合の問題」

討論 峯 陽一（同志社大学）

田中（坂部） 有佳子（青山学院大学）

**部会 9 「メガリージョンの再編成——インド太平洋・一帯一路・ユーラシア連合を中心に」**

司会 岩下 明裕（北海道大学）

報告 伊藤 融（防衛大学校）

「インドから見たインド太平洋——対中安全保障と戦略的自律性の狭間で揺れる  
モデル政権」

堀内 賢志（静岡県立大学）

『大ユーラシア』をめぐるロシアの外交戦略」

三船 恵美（駒澤大学）

「中国からみた一带一路とインド太平洋」

討論 岩下 明裕（北海道大学）

溜 和敏（中京大学）

## 部 会 日韓合同部会 “Constructing Regional Architecture: Middle Powers in the 10 Asia-Pacific”（英語で実施）

Chair: OYANE Satoshi (Doshisha University, President of JAIR)

Speakers:

PAIK Wooyeal (Yonsei University)

“Are They in the Same Boat? The Middle Powers’ Geostrategic Perspectives in the BRI-  
IPS Interstellar”

WU Yu-Shan (Institute of Political Science, Academia Sinica)

“Medium and Small Countries on the Geostrategic Faultline: Hegemonic Rivalry and  
the Pandemic”

YAMAMOTO Nobuto (Keio University)

“The Dynamics of Regional Cooperation Games: Perspectives from Southeast Asia”

Discussant:

LIM Eunjung (Kongju National University)

STARECKA Katarzyna (The University of Warsaw)

分科会セッション B （12：15～13：45）別掲

分科会セッション C （14：00～15：30）別掲

## International Relations of the Asia-Pacific (IRAP) 投稿セミナー （13：30～15：30）

20周年を迎えた International Relations of the Asia-Pacific (IRAP) 誌の趣旨、掲載論文の方向性、課題などについて、IRAP の編集に携わった会員が所見や体験談を提供し、投稿に関するアドバイスや将来の展望を含め、セミナー形式で会員の皆様と意見交換を行います。

スピーカー 佐々木 卓也（立教大学、元 IRAP 編集主任）

飯田 敬輔（東京大学、前 IRAP 編集主任）

司会 鈴木 基史（京都大学、現 IRAP 編集主任）

総会 （15：45～16：05）

**【共通論題】「ポスト・コロナの国際秩序」(16:15～19:05)**

司会 国分 良成 (慶應義塾大学)

報告 亀山 康子 (国立環境研究所)

「環境・気候変動の観点」

古城 佳子 (青山学院大学)

「コロナと自由主義国際経済秩序」

道下 徳成 (政策研究大学院大学)

「安全保障の観点——日本の役割の変化と展望」

討論 小林 誠 (お茶の水女子大学)

保城 広至 (東京大学)

**オンライン懇親会 (19:10～21:00)**

**第3日 10月31日(日) 14:00～16:30**

---

分科会セッションD (9:30～11:00) 別掲

分科会セッションE (11:15～12:55) 別掲

**英文ジャーナル投稿セミナー——Review of International Political Economy (RIPE) を中心として  
(12:30～14:00)**

海外英文ジャーナルに投稿する意義や投稿誌の選択方法、査読プロセスなどについてセミナー形式でお伝えします。Review of International Political Economy (RIPE)誌編集委員と英語論文執筆経験の多い会員2名が、効率的な英語論文執筆法や査読を通るための執筆技法など、実践的な情報も含めて議論します。

スピーカー 片田 さおり (南カリフォルニア大学、RIPE 編集委員)

吉松 秀孝 (立命館アジア太平洋大学)

浜中 慎太郎 (アジア経済研究所)

司会 片田 さおり (南カリフォルニア大学)

午後の部会 (14:00～16:30)

**部会 11 「歴史認識・記憶・和解の可能性と国際関係」**

司会 木畑 洋一 (東京大学)

報告 浅野 豊美 (早稲田大学)

「国民国家形成の断層をめぐる内外政治の共振と歴史和解——日韓関係を例に」

前川 一郎 (立命館大学)

「イギリスの人びとは帝国・植民地主義の過去をどう見てきたか？」

片岡 真輝 (アジア経済研究所)

「フィジーにおける表層的な民族融和と多人種主義——記憶の政治利用と被害者記憶をめぐって」

討論 木村 幹 (神戸大学)  
クロス 京子 (京都産業大学)

## 部会 12 「英米覇権のグローバリズムを問い直す」

司会 柄谷 利恵子 (関西大学)

報告 中嶋 啓雄 (大阪大学)

「アジア・太平洋における自由主義的帝国間秩序と『新渡戸宗の使徒』——両大戦間期から戦後へ」

遠藤 誠治 (成蹊大学)

「リベラルなグローバル・ガバナンスとヘゲモニーの構造——ポスト・ネオリベラリズムの世界秩序安定の条件」

白川 俊介 (関西学院大学)

「『ナショナリズムの復活』に関する規範的考察——政治哲学的観点から」

討論 清水 耕介 (龍谷大学)

馬路 智仁 (東京大学)

## 部会 13 「地域制度形成の国際関係——国際連携ダイナミズムの理論的検討」

司会 太田 宏 (早稲田大学)

報告 森井 裕一 (東京大学)

「EU の対インド太平洋外交とドイツのリーダーシップ」

坂井 一成 (神戸大学)

「地中海圏域における地域連携の交錯とフランス」

今井 宏平 (アジア経済研究所)

「中東・欧州・ユーラシア地域制度の関係とトルコ外交」

討論 太田 宏 (早稲田大学)

大庭 三枝 (神奈川大学)

## 部会 14 「アフリカにおける『ケア』の政治」

司会 武内 進一 (東京外国語大学)

報告 眞城 百華 (上智大学)

「紛争下における女性のエージェンシーの検討——エチオピア・ティグライ女性協会の経験」

牧野 久美子 (アジア経済研究所)

「南アフリカにおける社会政策の変化とケアの再編」

玉井 隆 (東洋学園大学)

「ナイジェリアにおける周縁化された人びとの生とケア」

討論 網中 昭世 (アジア経済研究所)

杉木 明子 (慶応義塾大学)

**部会 15 「グローバル・ヒストリーとしての石油危機」**

司会 池田 明史（東洋英和女学院大学）

報告 藤澤 潤（神戸大学）

「石油危機とソ連・東欧諸国」

山口 育人（奈良大学）

「石油危機と国際金融秩序」

平野 克己（アジア経済研究所）

「石油危機と開発論の変質」

討論 秋田 茂（大阪大学）

山本 健（西南学院大学）

**分科会プログラム**

**◆10月29日（金）**

**分科会セッション A（15:45～17:45）**

**A-1 日本外交史分科会 I**

責任者 高橋 和宏（法政大学）

テーマ 冷戦終結と今後の日本外交史研究

司会 高橋 和宏（法政大学）

報告 和田 潔（外務省外交史料館）

「外交史料館における冷戦終結期外交記録公開の状況」

武田 悠（広島市立大学）

「冷戦終結期の日本外交史研究の現在と今後」

討論 沼田貞昭（日本英語交流連盟）

青野 利彦（一橋大学）

井上 正也（成蹊大学）

**A-2 東アジア分科会**

責任者 荒川 雪（東洋大学）

テーマ 中国外交部档案へのアクセス困難下での中国外交史研究の現状と国際共同研究の可能性

【英語および日本語で実施】（ペーパーは日本語または中国語（日本語訳付き））

司会 荒川 雪（東洋大学）

報告 蔣 華傑（上海大学）

“Overcoming the Obstacles: Current Status and Future of Diplomatic Historical Research in the PRC”

蕭 道中（輔仁大学）

“Overview of Taiwanese Diplomatic History Research Materials and the Possibility of Using Taiwanese Historical Materials in Researching Chinese Diplomatic History”

杉浦 康之（防衛省防衛研究所）

「現代中国外交史研究における日本側資料利用の可能性——日中国交正常化以前を中心に」

討論 加茂 具樹（慶應義塾大学）  
張 雲（新潟大学）

**A-3 東南アジア分科会 I** 責任者 増原 綾子（亜細亜大学）

テーマ 東南アジアと欧米をめぐる国際関係の諸相

司会 増原 綾子（亜細亜大学）

報告 加藤 博章（関西学院大学）

「インドシナ難民問題の国際政治史的側面——冷戦と人道の狭間で」

永田 伸吾（金沢大学）

「5カ国防衛取極（FPDA）再考——英国のインド太平洋傾斜における東南アジア」

討論 青木 まき（アジア経済研究所）

鈴木 陽一（早稲田大学）

**A-4 安全保障分科会** 責任者 佐竹 知彦（防衛省防衛研究所）

テーマ Technological Innovation and International Nuclear Order

【英語による実施】

司会 森 聡（法政大学）

報告 友次 晋介（広島大学）

“Revisiting ‘Nuclear Revolution Revisited’”

秋山 信将（一橋大学）

“Transformation of the Power of Nuclear Weapons with the Rise of Emerging Technology”

REICHBERG Gregory（オスロ平和研究所）

“Nuclear Ethics in the Age of Artificial Intelligence”

討論 佐藤 丙午（拓殖大学）

ROBERTS Brad（ローレンスリバモア国立研究所）

**A-5 トランスナショナル分科会** 責任者 西脇 靖洋（静岡文化芸術大学）

テーマ 規範化する記憶・競合する真実

司会 西脇 靖洋（静岡文化芸術大学）

報告 福原 優策（東京大学）

「EU 共通の歴史認識の政治——欧州議会における欧州の歴史の記憶に関する決議の採択分析」

松寄 英也（津田塾大学）

「クリミアにおけるロシア編入の論理の変容——編入前と編入後のスピーチのテキスト比較」

小森 宏美 (早稲田大学)

「ヨーロッパの記憶階層秩序とエストニアの政治・社会」

討論 小林 正英 (尚美学園大学)

山添 博史 (防衛省防衛研究所)

**A-6 国連研究分科会** 責任者 坂根 徹 (法政大学)

テーマ 変容する世界の平和と安全における国連システムの役割

司会 福田 耕治 (早稲田大学)

報告 猪又 忠徳 (長崎大学)

「ポスト COVID-19 の紛争と災害の予防のための包摂的なグローバルガバナンスを目指して」

藤重 博美 (青山学院大学)

「『ブラヒミ報告』からの 20 年——国連平和活動の変化、課題、今後への展望 2000-2020」

望月 康恵 (関西学院大学)

「平和構築の新たな展開？——1990 年代の刑事司法機関の役割を事例として」

討論 清水 奈名子 (宇都宮大学)

◆10月30日(土)

分科会セッション B (12:15~13:45)

**B-1 日本外交史分科会 II** 責任者 高橋 和宏 (法政大学)

テーマ 自由論題

司会 熊本 史雄 (駒澤大学)

報告 番定 賢治 (アジア歴史資料センター)

「国際人道法の形成と日本外交——戦間期における国際赤十字運動への関与と捕虜条約 (1929 年) 批准の挫折」

石本 凌也 (同志社大学)

「米ソ戦略兵器制限交渉をめぐる日本外交、1972-1979 年——被爆国である同盟国の受容と主張」

討論 熊本 史雄 (駒澤大学)

黒崎 輝 (福島大学)

**B-2 アメリカ政治外交分科会** 責任者 森 聡 (法政大学)

テーマ 人権問題と米国の制裁

司会 倉科 一希 (広島市立大学)

報告 竹野 貴子 (南山大学)

「レーガン政権期米国のアパルトヘイト政策に対する経済制裁をめぐる米国国内政治

の展開——州議会・政府、地方議会・政府における『準外交』の萌芽と外交問題の内政化を中心に」

村上 政俊（皇學館大学）

「新疆ウイグル自治区問題に関する米国の対中制裁」

討論 西山 隆行（成蹊大学）

松本 佐保（日本大学）

**B-3 アフリカ分科会** 責任者 佐藤 章（アジア経済研究所）

テーマ 自由論題

司会 佐藤 章（アジア経済研究所）

報告 長辻 貴之（早稲田大学）

“Electoral Blind Spot and International Observers in Africa”

大平 和希子（東京大学）

「伝統的権威の変容と国家統治——ブニョロキタラ王国とムセヴェニ政権」

討論 藤井 広重（宇都宮大学）

榎本 珠良（明治大学）

**B-4 理論と方法分科会 I** 責任者 岩波 由香里（東京大学）

テーマ 理論

司会 赤星 聖（関西学院大学）

報告 政所 大輔（北九州市立大学）

“Reconciliation as a Mechanism of Norm Diffusion: Japan and Human Security”

周 源（神戸大学）

“A Formal Theory of Authoritarian Foreign Propaganda”

澤田 寛人（防衛省防衛研究所）

“The Mercurial Commitment: Revisiting the Unintended Consequence of Military Humanitarian Intervention and Anti-atrocity Norms”

討論 阪口 功（学習院大学）

岩波 由香里（東京大学）

**B-5 国際政治経済分科会 I** 責任者 西谷 真規子（神戸大学）

テーマ 経済と安全保障

司会 吉川 元（広島市立大学）

報告 高橋 敏哉（松蔭大学）

「自由貿易制約への国家安全保障論の陥穽」

鈴木 弘隆（元静岡県立大学）

“Aid-Based EU’s Economic Statecraft and European Populism: Is It Backsliding of Integration or Integration by the Crisis of COVID-19”



討論 鈴木 一人 (東京大学)  
奥迫 元 (早稲田大学)

**B-6 院生・若手研究分科会 I** 責任者 湯浅 拓也 (流通経済大学)

テーマ 国際関係における理論と秩序認識

司会 細川 真由 (京都大学)

報告 池寄 航一 (北海道大学)

「レイモン・アロンの戦争観——冷戦とクラウゼヴィッツ」

渡邊 涼一 (筑波大学)

「国際社会の制度構造と制度間関係——英国学派の国際社会論」

討論 大中 真 (桜美林大学)

宮下 雄一郎 (法政大学)

### 分科会セッション C (14:00~15:30)

**C-1 ラテンアメリカ分科会** 責任者 山岡 加奈子 (アジア経済研究所)

テーマ メキシコ権威主義体制再訪——成立過程と経済運営

司会 山岡 加奈子 (アジア経済研究所)

報告 岡部 恭宜 (東北大学)

「メキシコ中央銀行のソーシャル・キャピタル、1952-1970年」

村上 勇介 (京都大学)

「メキシコ権威主義体制の成立過程——1920-40年」

討論 ロメロ イサミ (帯広畜産大学)

渡邊 暁 (東京工業大学)

**C-2 理論と方法分科会 II** 責任者 岩波 由香里 (東京大学)

テーマ 実験

司会 土井 翔平 (北海道大学)

報告 多湖 淳 (早稲田大学)

“Micro-foundation of Quest for Status: Testing Status Perception and Multilateral Use of Force”

秦 正樹 (京都府立大学)・浜中 新吾 (龍谷大学)

「ワクチン確保をめぐる『闇の力』——日本とイスラエル世論におけるサーベイ実験の比較」

村上 剛 (立命館大学)

“Beyond Racial Prejudice: How Security Impacts Japanese Public Attitudes on Immigration”

討論 ケネス 盛 マッケルウェイン (東京大学)

土井 翔平 (北海道大学)

**C-3 国際統合分科会** 責任者 小林 正英 (尚美学園大学)

テーマ EU の規制政治

司会 武田 健 (青山学院大学)

報告 吉沢 晃 (関西大学)

「EU の市場支配的地位濫用規制の対外的含意——3 つの Google 事件」

津田 久美子 (北海道大学)

「EU の国際課税ガバナンス——その規範パワーの考察」

討論 渡邊 頼純 (関西国際大学)

神江 沙蘭 (関西大学)

**C-4 国際政治経済分科会 II** 責任者 西谷 真規子 (神戸大学)

テーマ 経済のグローバル化と米国政治過程

司会 鈴木 一敏 (上智大学)

報告 吉本 郁 (東京大学)

「生産過程のグローバル化と外国ロビー——米国 FARA レポートの分析から」

手塚 沙織 (南山大学)

「資本化されたシティズンシップ——アメリカの投資家移民ビザプログラムを事例として」

討論 西山 隆行 (成蹊大学)

鈴木 一敏 (上智大学)

**C-5 国際交流分科会** 責任者 齋川 貴嗣 (高崎経済大学)

テーマ 自由論題

司会 齋川 貴嗣 (高崎経済大学)

報告 潘 吉玲 (神奈川大学)

「1930-1950 年代の徐逸樵の対日認識——雷震ら知日派グループの重要メンバーとして」

佐藤 雪絵 (早稲田大学)

「光州事件とアメリカの対韓外交——人権問題をめぐる国務省・米議会・韓国外務部の三者関係を中心に」

討論 家永 真幸 (東京女子大学)

小阪 裕城 (釧路公立大学)

**C-6 環境分科会** 責任者 渡邊 智明 (福岡工業大学)

テーマ 資源と環境をめぐる政治

司会 渡邊 智明 (福岡工業大学)

報告 玉井 良尚 (立命館大学)

「軍事と環境保護規範の相克——水資源の軍事利用問題を中心に」

近藤 重人（日本エネルギー経済研究所）

「サウジアラビアの気候変動外交——経済的利益と正統性の追求」

中川 洋一（立命館大学）

「第4次メルケル政権の気候保全エネルギー政策とその変容」

討論 蓮井 誠一郎（茨城大学）

沖村 理史（広島市立大学）

渡邊 智明（福岡工業大学）

## ◆10月31日（日）

### 分科会セッションD（9:30～11:00）

**D-1 欧州国際政治史・欧州研究分科会** 責任者 池田 亮（東北大学）

テーマ イギリスの戦後ヨーロッパ秩序構想

司会 池田 亮（東北大学）

報告 中村 優介（慶應義塾大学）

「ウィンストン・チャーチルにおけるフランス再興の構想、1940-1945年——英米関係と英仏関係の狭間で」

南日 賢（大和市役所）

「イギリスと西ドイツのオストポリティーク 1969-1972」

討論 川嶋 周一（明治大学）

妹尾 哲志（専修大学）

**D-2 中東分科会** 責任者 溝渕 正季（広島大学）

テーマ 東アラブの政治変動とイスラーム

司会 溝渕 正季（広島大学）

報告 池端 蒔子（日本学術振興会）

『宗教の国際政治』というアリーナ創出——規範形成に挑戦するヨルダンとイスラーム諸国」

渡邊 駿（日本エネルギー経済研究所）

「ヨルダンの権威主義政治と国家性——地方分権改革を事例として」

木戸 皓平（東京外国語大学）

「外部介入を招く外交のコンシステンシーとインコシステンシー——2000年以降のシリアを事例に」

討論 錦田 愛子（慶應義塾大学）

**D-3 ジェンダー分科会** 責任者 中村 文子（山形大学）

テーマ 女性による意思決定への参画

司会 中村 文子 (山形大学)  
報告 笹岡 伸矢 (駿河台大学)  
「戦前の女性参政権成立における政治的要因——計量分析から考える」  
甲斐田 きよみ (文京学院大学)  
「女性の世帯内意思決定参加を促す開発援助とは何か?——ナイジェリアを事例として」  
討論 久保田 徳仁 (防衛大学校)  
大野 聖良 (神戸大学)

**D-4 院生・若手研究分科会Ⅱ** 責任者 湯浅 拓也 (流通経済大学)

テーマ 国際関係におけるアクター間対立のメカニズムとその帰結

司会 馬場 一輝 (韓国統一研究院)

報告 大谷 壮生 (一橋大学)

「対等化の悲劇——日韓歴史摩擦の悪化と『地位』」

陳 兆昱 (青山学院大学)

「ジェンダー多様性と国家間紛争——女性は平和を促進するか」

符 晨 (青山学院大学)

「国家間の敵対関係は民族自決運動の結果にどのように影響するか」

討論 浅野 塁 (早稲田大学)

湯川 拓 (東京大学)

**分科会セッション E (11:15~12:55)**

**E-1 日本外交史・東アジア国際関係史合同分科会** 責任者 高橋 和宏 (法政大学)  
五十嵐 隆幸 (防衛大学校)

テーマ 東アジアにおける冷戦と内政

司会 五十嵐 隆幸 (防衛大学校)

報告 岡田 美保 (防衛大学校)

「日ソ国交回復交渉における国際冷戦と国内冷戦の相関」

濱砂 孝弘 (九州大学)

「安保改定と日本社会党——社会党右派の視点から」

三代川 夏子 (東京大学)

「断交下における日台『外交』チャンネル——航空路線問題を例に」

討論 添谷 芳秀 (慶應義塾大学)

川島 真 (東京大学)

**E-2 ロシア・東欧分科会** 責任者 福田 宏 (成城大学)

テーマ 戦間期東欧の権威主義政治——リトアニア・ユーゴスラヴィア・ハンガリーの事例から

司会 福田 宏 (成城大学)

- 報告 姉川 雄大（千葉大学）  
「戦間期ハンガリー権威主義政治における『ヌメルス・クラウズス』体制としての側面の解明に向けて」
- 門間 卓也（日本学術振興会）  
『グローバル・ファシズム』と現実政治——戦間期ユーゴスラヴィアにおける権威主義体制の分析」
- 重松 尚（東京大学）  
「第二次世界大戦開戦前後のリトアニアの外交政策をめぐる議論」
- 討論 辻河 典子（近畿大学）  
板橋 拓己（成蹊大学）

**E-3 東南アジア分科会Ⅱ** 責任者 増原 綾子（亜細亜大学）

- テーマ 民主化過程の統治が抱える課題
- 司会 増原 綾子（亜細亜大学）
- 報告 小西 鉄（福岡女子大学）  
「インドネシアにおける経済権力と金融監督——『新興国のビジネスと政治』と課題」
- 岡野 英之（近畿大学）  
「タイ国境から見たクーデター後のミャンマー」
- 討論 末廣 昭（東京大学）  
松野 明久（大阪大学）

**E-4 国際政治経済分科会Ⅲ** 責任者 西谷 真規子（神戸大学）

- テーマ 書評会『新時代のグローバル・ガバナンス論』
- 司会 山田 高敬（名古屋大学）
- 報告 西谷 真規子（神戸大学）  
「現代グローバル・ガバナンスの特徴——多主体性、多争点性、多層性、多中心性」
- 小川 裕子（東海大学）  
「国際開発をめぐるグローバル・ガバナンス」
- 西村 もも子（東京女子大学）  
「知的財産権の保護をめぐるグローバル・ガバナンス」
- 討論 山田 敦（一橋大学）  
和田 洋典（青山学院大学）

**E-5 政策決定分科会** 責任者 川名 晋史（東京工業大学）

- テーマ 米軍基地をめぐる政策決定
- 司会 川名 晋史（東京工業大学）
- 報告 辛 女林（上智大学短期大学部）

「地方政治主体を中心にみた在日米軍政策の合意過程」  
 大澤 傑（愛知学院大学）  
 「独裁者と基地——権威主義国家における基地の役割」  
 討論 熊本 博之（明星大学）  
 岸川 毅（上智大学）

**E-6 平和研究分科会** 責任者 清水 奈名子（宇都宮大学）

テーマ 移行期正義・国際刑事裁判と和解  
 司会 山田 哲也（南山大学）  
 報告 二村 まどか（法政大学）  
 「紛争解決・平和構築における和解の戦略的目的」  
 下谷内 奈緒（津田塾大学）  
 「国際刑事裁判における加害者と被害者の和解」  
 討論 小阪 真也（同志社大学）  
 山田 哲也（南山大学）

## 2. 和文学機関誌『国際政治』205号～207号掲載論文

『国際政治』205号
鈴木 一人「検証 エコノミック・ステイトフラフト」 佐藤 丙午「エコノミック・ステイトフラフト（Economic Statecraft）の理論と現実」 長谷川将規「エコノミック・ステイトフラフトの歴史と未来」 杉之原真子「対米直接投資規制の決定過程からみるエコノミック・ステイトフラフト」 松本 充豊「中国のエコノミック・ステイトフラフトと台湾」 張 雲 「中国の強制的エコノミック・ステイトフラフトの論理」 小林 周 「中東発エコノミック・ステイトフラフトの検証」 久保田裕次「原敬内閣成立期の対中国外交と新四国借款団」 久保田雅則「核不拡散規範の制度化」 増永 真 「同盟関係の変容に直面した二国の戦略とその帰結」 <書評論文> 前川 一郎「「第三世界」における冷戦と脱植民地化——予備的考察」 高原 秀介「異色の共和党政治家・ハーバート・C・フーヴァーの実像を求めて」 書評：ロメロ・イサミ、浜 由樹子、安富 淳
『国際政治』206号
青野利彦「序章 国際政治のなかの同盟」 矢口啓朗「一八三〇年代の四国同盟」 田嶋信雄「日本の枢軸同盟政策と対ソ政策」 泉川泰博「動態的同盟理論」 福島啓之「日米同盟の歴史的推移と理論的構図」

藤井 篤「脱植民地化と西側同盟」  
 中島琢磨「原子力潜水艦の日本寄港問題」  
 三百莉拓志「「2+2」の質的变化による日米同盟強化への影響」  
 佐竹知彦「日米豪の安全保障協力」  
 川村陶子「国際文化関係運営の政策を構想する」  
 毛利聡子「脱炭素社会を目指すプライベート・ガバナンス」  
 <書評論文>  
 三船恵美「転換期の米中関係をみる眼」  
 山下 光「国連平和活動の組織と政治」  
 書評：浅野豊美、清水奈名子

『国際政治』207号

宮地隆廣「序章 二一世紀ラテンアメリカの政治研究」  
 出岡直也「チャベス政権支持増減の要因としてのマクロ経済と再分配政策」  
 大澤 傑「ニカラグアにおける個人化への過程」  
 大串和雄「ラテンアメリカの移行期正義の特徴」  
 浦部浩之「ラテンアメリカにおけるポストネオリベリズム期の地域統合」  
 舛方周一郎「戦略的パートナーシップを通じたブラジル気候変動対策への中国の関与」  
 ロメロ・イサミ「日本とキューバ革命」  
 浅香幸枝「『地球儀を俯瞰する外交政策』と中南米日系社会との連携に関する一考察」  
 藤田吾郎「芦田書簡」の再検討  
 ミラー枝里香「一九七三年石油危機におけるイギリスの二面的石油政策」  
 <書評論文>  
 菅 英輝「冷戦の全体像と冷戦史の時期区分論」  
 今井宏平「アイデンティティから読み解くトルコ外交」  
 納家政嗣「『歴史の終焉』後の歴史をどう書くか？」  
 書評：中村長史、江崎智絵、鈴木一人

3. 英文機関紙 *International Relations of Asia-Pacific* Vol.21, No.2, No.3, Vol.22, No.1 掲載論文

*International Relations of the Asia-Pacific*, Vol.21, No.2

Dylan M H Loh, “The ‘Chinese Dream’ and the ‘Belt and Road Initiative’: narratives, practices, and sub-state actors”  
 Poppy S Winanti, Rizky Alif Alvian, “Indonesia’s South–South cooperation: when normative and material interests converged”  
 Mark Beeson, Andrew Chubb, “Australia, China and the maritime ‘rules-based international order’: comparing the South China Sea and Timor Sea disputes”  
 Yao-Yuan Yeh, Charles K S Wu, “When war hits home: Taiwanese public support for war of necessity”  
 Research Note

Book Reviews

*International Relations of the Asia-Pacific*, Vol.21, No.3

Tianyang Liu, Yao Song, “Beyond the hinterland: exploring the international actorness of China’s Yunnan province”

Dong Sun Lee, Iordanka Alexandrova, “North Korean nuclear strategy: envisioning assured retaliation”

Weiwen Yin, “Domestic arbitral institutions and foreign direct investment”

Lu Ding, Xuefeng Sun, “Seeking support beyond alliance? Rethinking great power partner politics after the Cold War”

Shunsuke Obiya, “Between ‘Coercive League’ and ‘Consultative League’: a reappraisal of debates surrounding the ‘Reform’ of the League of Nations”

Book Reviews

*International Relations of the Asia-Pacific*, Vol.22, No.1

Kazumasa Hayamaru, “A critique of Chinese diplomatic modernization narratives: reinterpreting shifts in Qing foreign affairs institutions in the early 1860s from the Qing perspective”

Chiraag Roy, “China’s grand strategy and Myanmar’s peace process”

Wen Zha, “Great power rivalry and the agency of secondary states: a study based on China’s relations with Southeast Asian countries”

Research Notes

Book Reviews